

石の文化的景観の調査

皆さんは、「景観（風景）」と聞いて、何を思い浮べるでしょうか。景観は、私たちの目に映るものです。それは、私たちが普段生活している際、目にしているものといえますし、わざわざ眺めに行くものともいえません。では、標題の「文化的景観」とは、どういった意味になるでしょうか。これは、私たちの日常に見られる景観そのもので、実のところあまり意識して見ていない要素も多くあります。このような景観の要素の中には、文化財としての価値をもつものもあります。皆さんの生活されているこの高砂市には、そういった価値のある景観が、周りにたくさんあるのです。

中でも『石の宝殿』とその周辺にみられる景観は、『石の文化的景観』として、皆さんが目になっているものといえるのではないのでしょうか。

現在、私たちは、石の文化的景観についての調査をしています。どの場所の景観が高砂らしいのか、どのような景観の要素が良いのか、それをどう後世に残せられるのか、といったことを調べています。

文化財総合的把握モデル事業

ひと・まち・石

問合先

教育委員会
生涯学習課文化財係
☎ 448-8255

調べていくと、高砂の石の景観は、とても力強く、壮大で、見るものを圧倒する空間を構成していることに改めて気づかれます。そして、この石の景観は、現在も竜山石として採石されていますので、借景（かりけい）のように日々変化する景観ともいえ、高砂らしい石の文化を形成している「生きた景



竜山石切場の眺望

観」といえるものです。この郷土の石の文化が育んだ豊かな景観は、皆さんが少しの意識を持たれることにより、それが景観の維持への大きな原動力になります。ぜひ、一度ゆっくりこのダイナミックな石の景観を眺めてみて、日本でも特質的な高砂の「石の文化的景観」を感じてみてはいかがでしょうか。

(京都府立大学大学院

福井 亘)